

2014年御嶽山噴火時における
搜索・救援活動への助言

山岡耕春
名古屋大学環境学研究科



王滝山頂

八丁ダルミ

剣が峰

一の池

二の池

二の池本館

9/28日には、この状態の山頂で捜索・救助隊を活動させることがすでに決断されていた。



リスク低減のための活動監視が必要

2014.9.29 photo by Yamaoka



御嶽山周辺の大学観測点(既設・新設)

2014.9.19



名古屋大学における、 噴火直後(9月27日:土曜日)の対応

- **メンバー招集**
 - 噴火後2–3時間(7/12人:2名海外)
- **噴火の情報収集**
 - TV, インターネット
- **緊急観測計画の立案開始**
- **緊急データ解析**
- **防災対応(噴火予知連絡会・内閣府)**
- **メディア対応**
 - メディア控え室の設置
 - メディア対応担当

2日目以降

- 緊急研究計画 > 10.3にほぼ固まる(古本・渡辺)
- 臨時観測点の設置
 - 地震計(広帯域)、地震計アレイ、GPS
- 噴火予知連絡会拡大幹事会 9.28
 - 名古屋地方気象台でTV会議参加
- 御嶽噴火に関わる関係省庁災害対策会議(全2回) のちに御嶽山噴火非常災害対策本部会議(全15回)にTV会議システムで参加 (山岡)
- 山頂調査の実施決定にあたり、気象庁に助言(山岡)
- 国土交通省中部地方整備局との情報交換
 - 御嶽山リアルタイム映像の配信
- メディアの嵐に対応
 - 窓口は一人に限定 (対応の限界を設定)
 - 研究環境の確保 全部の問い合わせには対応できない
 - 地元局を軸に対応
 - 東京キー局へは名古屋の民放の映像を渡してもらう。
 - 名古屋局と東京キー局をつなぐ
 - 名古屋大学から中継

防災対応(1)

- 政府の御嶽山噴火非常災害対策本部(事務局内閣府)を通じての対応
 - － 山頂に登る捜索救助隊の二次災害リスク低減に貢献
 - － 再噴火の兆候を監視
 - － 火山活動の評価・解説
 - － 火山ガス対策

災害応急対策に関する基本方針 ~~案~~

平成26年9月28日
平成26年(2014年)御嶽山噴火
非常災害対策本部

関係地方公共団体と連携を密にし、国民の生命、財産を守るため、対応に全力を尽くす。

- ① 引き続き、行方不明者の安否確認、救助に全力を尽くすこと
- ② 噴石、火山ガス、土石流発主などによる二次災害を防止し、救助活動の安全確保に万全を期すこと
- ③ 火山活動に対する徹底した監視体制を確保し、さらなる被害の拡大防止を図ること

防災対応(2)

- **中部地方整備局(多治見砂防国道事務所)との情報交換**
 - 御嶽山無人カメラ映像のリアルタイム配信
 - 砂防ダムの設置状況
 - 泥流・土石流発生状況
 - 泥流シミュレーション結果
 - 今後の火山活動の見通し
 - 融雪泥流の可能性とシミュレーションの方針



現地災害対策本部

長野地方気象台

御嶽山

岐阜地方気象台

名古屋大学

気象庁

非常災害対策本部

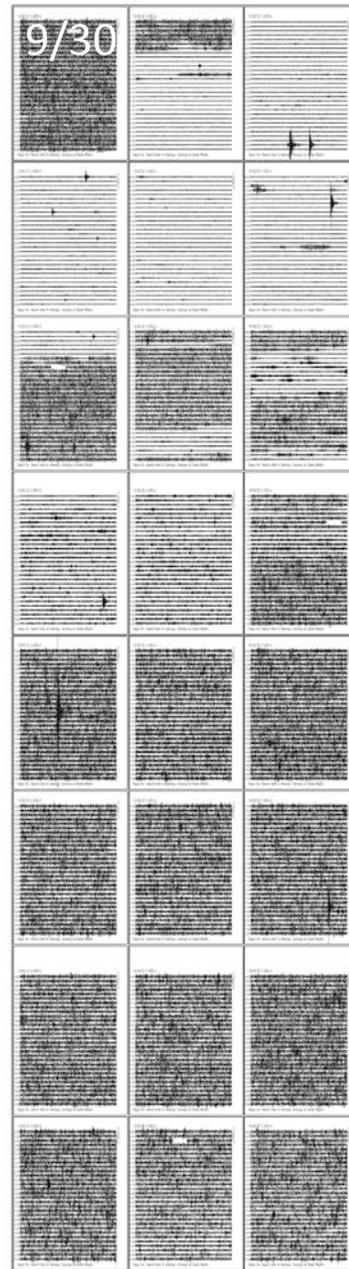
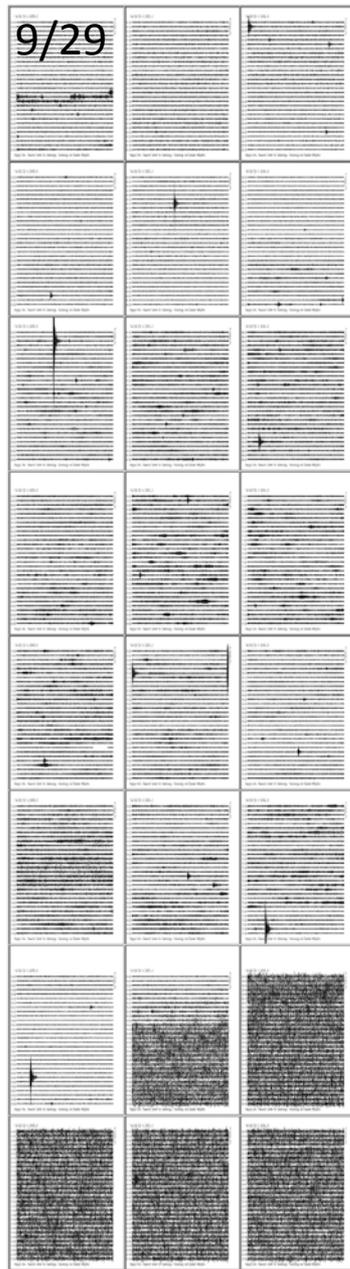
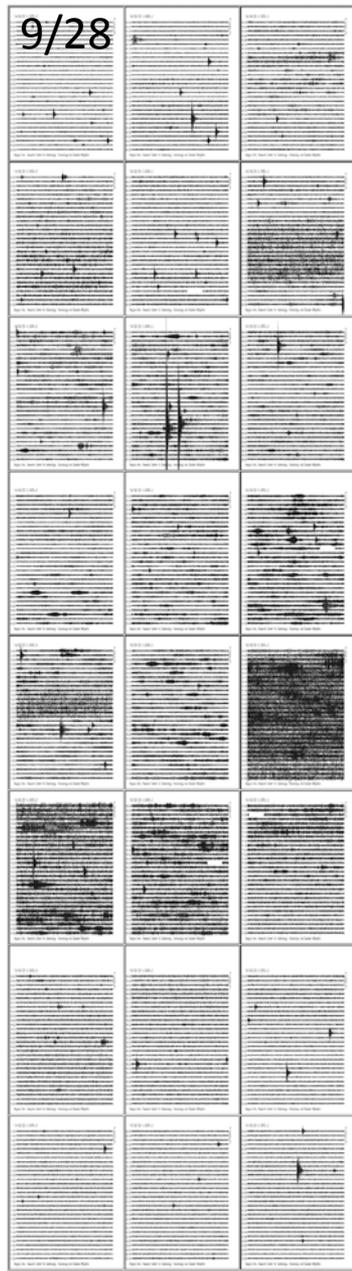
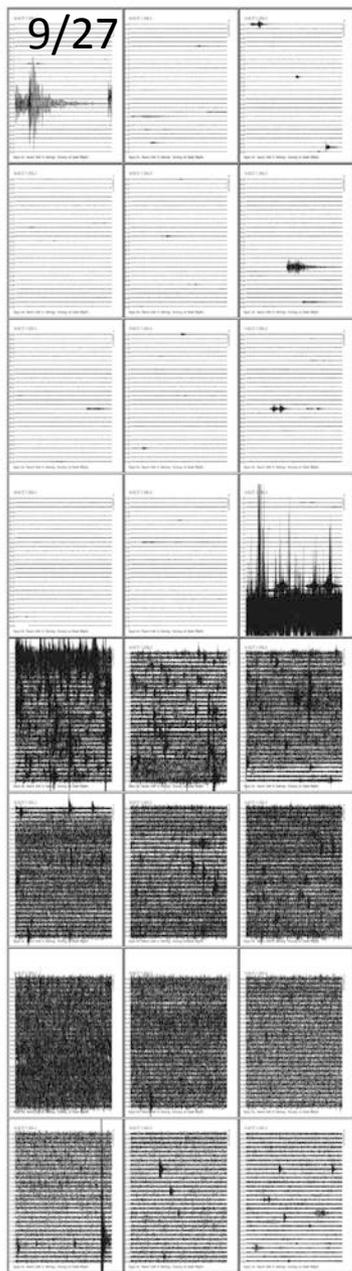


搜索救助隊のサポート

- 二次災害リスクを**できるだけ減らす**ために、警察・消防・自衛隊による搜索・救助隊のサポート
 - 9/28～ 山頂での作業中における活動監視
 - 地震・微動・傾斜（気象庁）
 - 9/28～ 定例の非常災害対策本部会議での解説（山岡・気象庁）
 - 9/29夕方からの微動活動の活発化
 - 内閣府担当者と急遽相談
 - 気象庁職員との早朝評価を始めることになった
 - 9/30～ 毎朝（4時～5時）に火山活動を評価
 - 山頂での活動に関する確認（気象庁・山岡）
 - 気象庁職員が助言（現地災対）
 - 9/30の山頂での活動を中止
 - 当日の非常災害対策本部会議にて丁寧な説明
 - 10/1は山頂での活動再開
 - 10/16まで早朝評価を継続



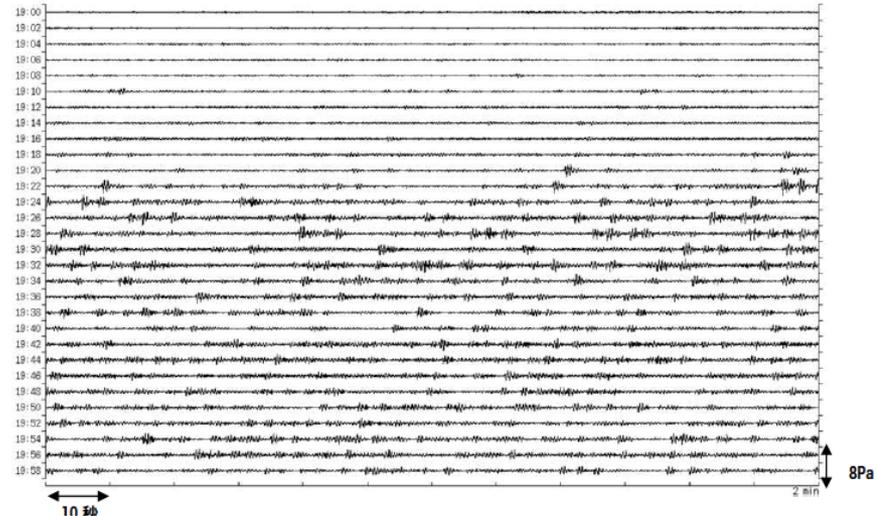
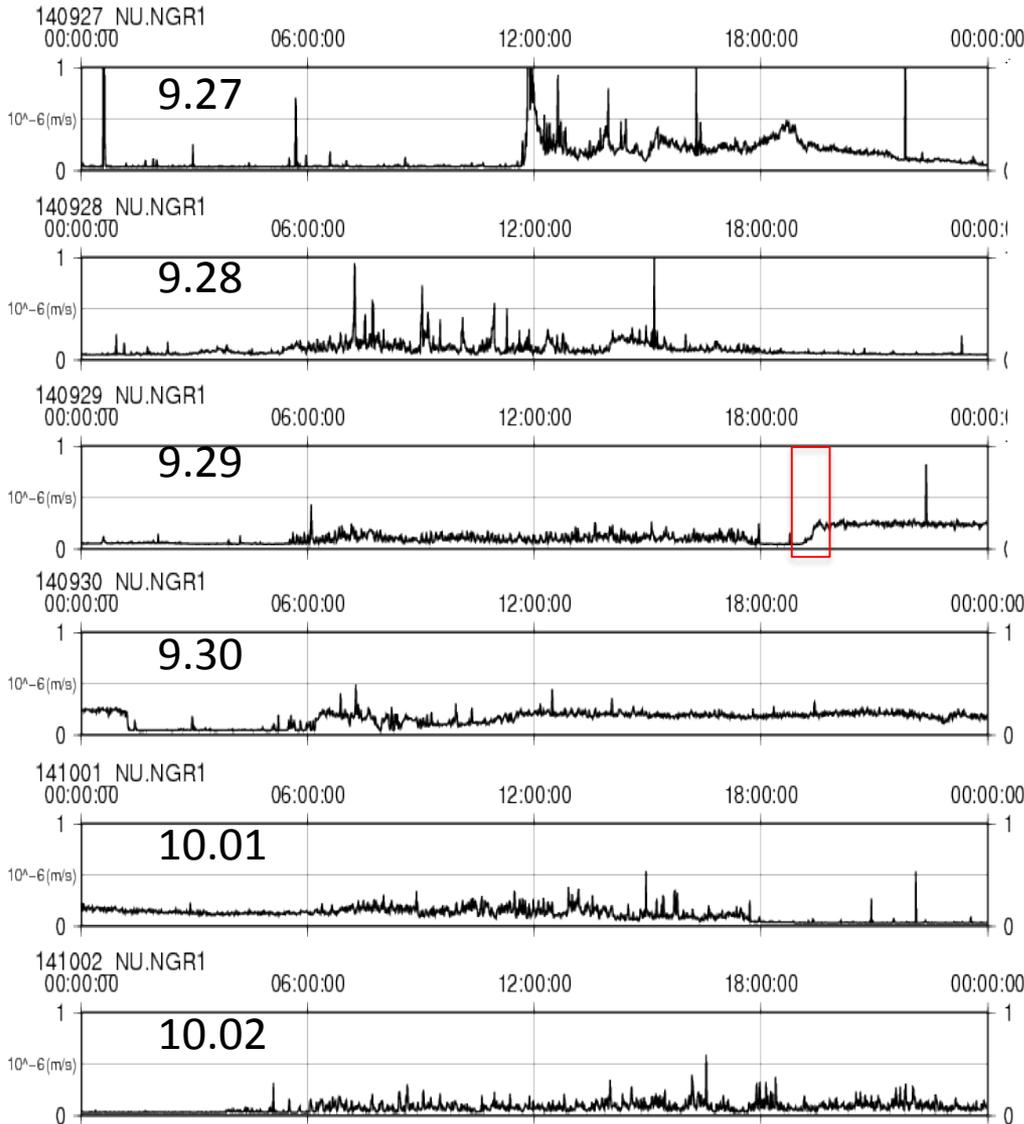
9/27-30にかけての地震計振幅(気象庁田の原)



0時	1時	2時
3時	4時	5時
6時	7時	8時
9時	10時	11時
12時	13時	14時
15時	16時	17時
18時	19時	20時
21時	22時	23時

名大濁河観測点震動振幅記録(1Hz-15Hz)

2014.9.27 - 10.02



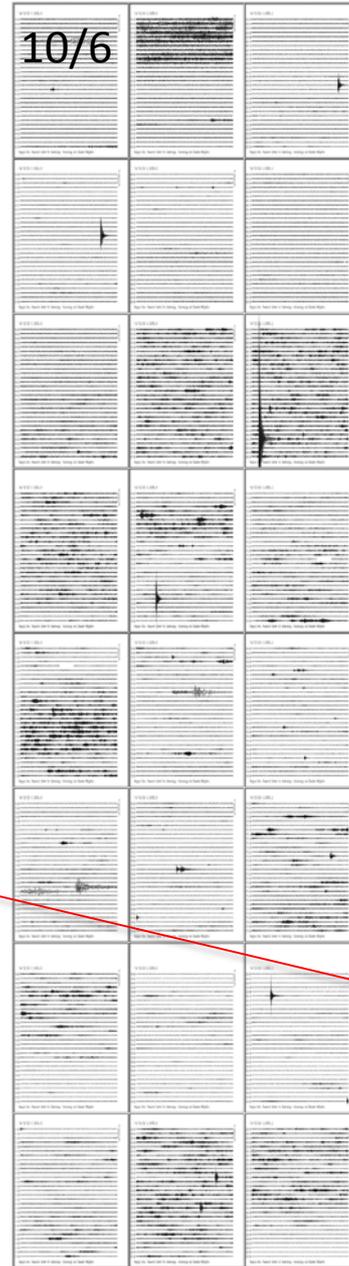
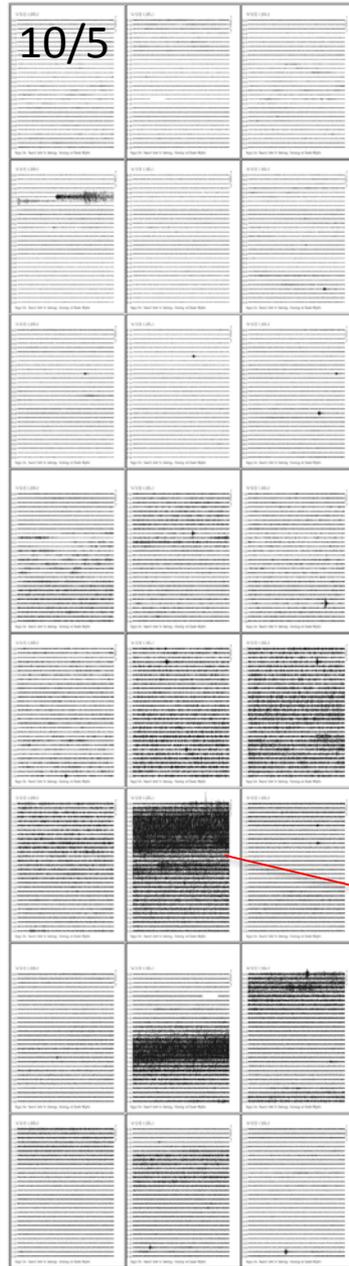
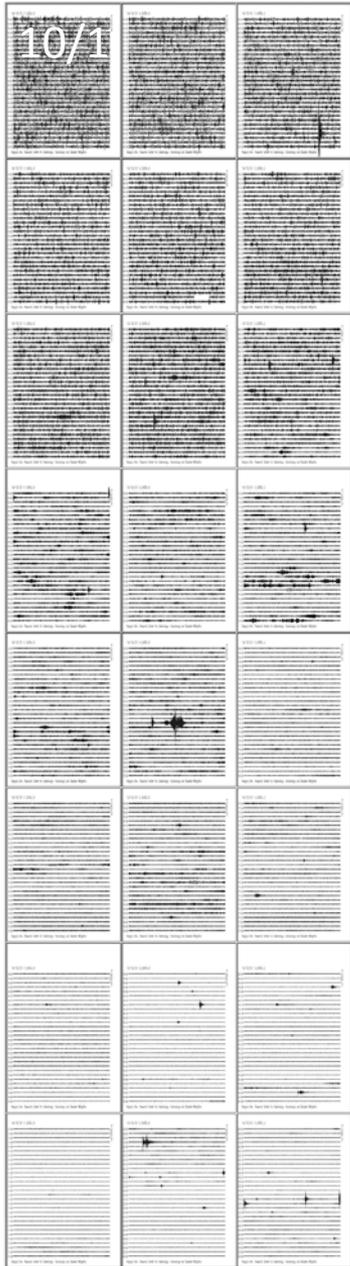
田の原上の空振記録(JMA)

2014/9/29 19:00-20:00

9月29日夕方から、一時的に噴気活動が活発化していたと思われる。



10/1以降の地震計記録(気象庁田の原)



.....

0時	1時	2時
3時	4時	5時
6時	7時	8時
9時	10時	11時
12時	13時	14時
15時	16時	17時
18時	19時	20時
21時	22時	23時

土石流による震動
(ワイヤーセンサー
検知.16:59)



なぜ、名古屋で？

- 情報収集体制が整っていた
 - 地震計・映像(国交省)・ネット環境・資料・スタッフ
- 同時にメディア対応も必要
- ペース配分を考慮
 - 交代要員がない
 - 終わりの見えない対応が必要
- へり(民放:名古屋空港発着)には搭乗
- 東京へは出張せず

その他

- 現地に行かずに臨場感を得られるか？
 - 伊豆大島1986噴火の経験
- 微動を見て分かるのか？
 - 伊豆大島噴火後の微動(1986-1990)の経験
- その他
 - 家族の理解
 - 1986伊豆大島、1989伊東など

